

## 最終日 一般会計補正予算

## 義農大賞増額分の是非を問う討論

反対



伊賀上

審査委員会で大賞が2件になったということだが、先日の予算決算常任委員会では、総務課長から町長による決定であるとの答弁があった。町長が「大賞は1件で」と言えばよいだけだと考える。

また、能は予算を決定する1年前には、京都の能の先生に制作依頼をしている。これは町長が、自分の趣味である能を事業化するための予算なのか？11万7千円の予算は『いい加減過ぎる私物化予算、悪しき公約』であると考ええる。

賛成



村井

義農大賞表彰式での特別イベントで義農作兵衛のオリジナルの能を八公演する。

能の制作を京都の有名な能楽師にお願いするに至った経緯は「まだ事業実施も予算も決定していない、議会が了承しないと実現しない、それでもいいかという勝手なお願いであった」と町長自身が記者会見で公表しており、やましいことはない。

新作能の上演は誰も思いつかない町長ならではの発想であり、町長以外では成し遂げられない、大きな功績である。

増額分とは

義農大賞審査委員会において大賞受賞者を選考した結果、受賞者が2名となり、映像作品制作費に不足が生じるため、委託料11万7千円を追加するもの。

計画時は受賞者1名で、その映像作品制作費は当初予算で計上されていた。

映像作品制作とは、受賞者の活動の様子等を映像化すること。4月表彰イベントでその映像を公開し、受賞者の活動の様子を紹介する。

反対



曽我部

「義農大賞」事業は、賛否分かれてのスタート。事業に賛成・反対だった方が、この増額分のみに対してどう思うのか。事業の反対より、この増額分に対しては、反対や「そこまでやらなくても」と批判的な声が多いと思われる。そのような中で増額して事業を進めるべきであるだろうか。ここは町民感情を考慮して、予定どおり受賞者1名、当初予算程度で事業を進めるべきではないだろうか。その方が町民のほとんどの方が納得するのではないだろうか。

賛成



田中

2名の義農大賞受賞者は、町とは独立した委託業者が運営する審査委員会で公平公正に決まったものであり、選考結果に行政が介入すれば公平性を欠く。165件という多くの応募の中から、真剣に選考していただいた審査委員の方々にも失礼である。

今回の義農大賞に関する補正予算は、大賞が二つとなったため、大賞受賞者の功績の映像化に、やむなく追加費用が必要となったものであり、他の事業と同様の手続きでならぬ問題ない。

